

## JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第18回運営委員会議事録
- ◇「火星生命体発見」にかかわって
- ◇電子メールニュースレターへの投稿について
- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇学会誌購読申込み

### ◇日本惑星科学会第18回運営委員会議事録

開催日時：1996年8月9日(金) 17:40~19:50

開催場所：宇宙科学研究所A棟5階会議室

出席者：中澤・水谷・武田・加藤・佐々木・杉浦・高木・福岡・藤原・向井・村江・山本・渡部・阿部(以上出席者), 荒川・土山・寺沢・林・藤井(以上委任状), 堀内(以上オブザーバー)

## I. 報告

### 1. 学会員の入会状況

中澤会長より8月8日現在の学会員数につき、以下の通り報告があった。

会員(一般)	357名
会員(学生)	133名
賛助会員	11社

なお、3月の合同大会開催時に比べ、会員数(含学生)は25名増えたことが報告された。

### 2. 惑星科学研連設置について

標記につき中澤会長より以下の通り報告があった。天文学研究連絡委員会、地球物理学研究連絡委員会より、当面「研究連絡委員会」ではなく地物研連の下での「専門委員会」とし、関係研連か

ら最低限3ポストの定員を移すことで出発したらどうか、との提案があり、

- (1) 天文研連から定数1,
- (2) 鉱物研連から選挙母体を維持することを条件に定数1,
- (3) 電磁気研連から選挙母体を維持することを条件に定数1

を移す方向で調整が進んでいる。なお、この報告に関連して、武田副会長より「宇宙化学地球化学研連は協力できないと結論したわけではなく、まだ検討中と理解すべきである」旨コメントがあった。

### 3. 秋季学会講演会

10月2日~4日九大理学部で予定されている秋季学会講演会の進捗状況について、村江大会委員長より以下の通り説明があった。

口頭発表44, ポスター24, 特別講演3の発表が予定されており、すでにプログラムが完成して、「遊・星・人」Vol.5, No.3に掲載されている。スケジュールとしては、総会は10月2日夕方を予定、またポスター発表はロビーで一回に10件ずつ3日間(全日)行うことにした。また、学会講演会に対しては県(福岡)の後援が得られ、公開講演会には科研費の補助が得られた。

#### 4. 平成9年度秋季学会講演会

平成9年の秋季学会講演会については、立命館大学で行うよう墻内会員にお願いしており、同会員から「大学の休みの関係で9月16日～20日の間で3日間、立命館大学琵琶湖草津キャンパス(京都から琵琶湖線で23分程度)で行う見通しである」旨報告があった。

#### 5. その他

- ① 平成10年度秋季学会講演会について考慮すべき時期に来ており、東大で行ったかどうか、との意見が出た。
- ② 宇宙化学地球化学研究連絡委員会からの要請で、科研費審査委員候補者の推薦について運営委員あてe-mailで推薦の依頼を行っていたが、1名の候補者を選出した旨、中澤会長より報告があった。
- ③ 若手夏の学校への経費補助について要請があったが、すでに予算に計上されていたとおり、10万円の補助を行った。報告については「遊・星・人」に掲載の予定である。
- ④ 合同欧文誌アンケートについて約40件回答が来ている旨、中澤会長より報告された。
- ⑤ 秋季講演会のプログラム掲載の関連で、次号の「遊・星・人」の送付が9月10日ごろ行われるとのことであるが、発行日(9月25日)は今後も守って欲しい旨、中澤会長より要請があった。
- ⑥ 「6月25日発行された学会誌は、予算の締めつけを考慮したためか、ごく軽いものとなっているが、内容の充実を図って欲しい」旨、中澤会長より編集専門委員会に対して要請があった。これを受け、村江編集専門委員会委員長より次号、次々号と時宜を得た特集を組む予定となっており、充実はこれからも図っていくつもりであるとの発言があった。

## II. 議事

運営委員会の成立を確認の後、議事に入った。

### 1. 会則改定について

前回委員会でアナウンスされたとおり、日本学術会議会員推薦人の選挙を行うため、また、役員・会長選挙を控えていることから、会則の改訂を行う必要があり、そのたたき台が総務専門委員会福岡委員より提示された。主な変更点は以下の通り。

- ① 旧「第3章 役員および運営組織」を「第3章 役員、第4章 運営」と、分け、記述を明解にした。
- ② 役員選挙規定、日本学術会議関係役員等選挙規定を別に設けた。

詳細にわたり検討を行ったがその検討の結果を参考に福岡委員が原案をまとめ、藤原総務専門委員会委員長及び会長に送り、次回の総会で会員に諮ることとした。

### 2. 第4期役員選挙関連のスケジュールについて

第4期役員選挙に関連し、名簿の作成を行うことについて検討した。経費がかさむこともあり、氏名と所属のみを羅列した選挙用の名簿を作るに留めてはどうか、との意見も出たが、前回の名簿作成は1994年であり、その後会員も増えていること、また、若い会員にとっては名簿に掲載されることが意味あることである、との考え方から、経費については別途検討することとして、名簿の作成は行うべく総務専門委員会によって準備を始めることとなった。

また、年末には第4期役員選挙を行うことになるが、それにかかわりスケジュールを以下のように

に決めた。

- ・次号学会誌に同封して会員の名簿の訂正依頼を  
会員宛送付(締切：9月末日)
- ・10月はじめから名簿作成作業開始，11月中旬原  
稿完成，11月末印刷完了
- ・総会(10月2日)で選挙管理委員の選出。
- ・11月初旬会長候補者推薦依頼(11月下旬締切)
- ・12月初頭，投票用紙及び会員名簿発送
- ・12月20日頃開票，決定

### 3. 研究集会後援及び共催について

下記の研究集会主催者から後援又は共催についての依頼が学会あてにきている。

- ・COSPAR(名古屋・1998年開催・西田篤弘委員長)共催依頼
- ・第5回宇宙空間シミュレーション会議(京都・  
1997年開催・松本紘委員長)後援依頼
- ・第12回ESR応用計測研究会(奈良・'96'9・池谷  
元伺委員長)共催依頼

検討の結果，承諾することとなった。

### 4. 合同大会プログラム編成について

平成9年3月に名古屋大学で行われる合同大会について高木委員より以下のような報告があった。

前年の大阪における合同大会に比べ会場数が減っていること，また地の利の良さから発表数の増加が見込まれること，などから，プログラム委員会では，固有セッション(口頭発表)を大幅に減らし，共通セッションを増やすこと，ポスター発表を増やすこと，また，固有セッションについては前年度の6割程度にして欲しいこと，などを考えている。これらにつき各学会に対して検討の依頼があった。日本惑星科学会としては固有の学会講演会を別に(秋に)おこなっており，合同大会の趣旨

から基本的には了承できると，判断した。

このことについて種々議論した結果，以下の通りに決まった。

昨年度の固有セッションは4コマ分だったので6割程度に減らすとすれば今年度は2コマになる。この場合，口頭発表17，ポスター54(口頭発表15分，ポスター2分の場合)となり，余りに小規模となるので，3コマ程度は確保してもらえるよう要望する。また，関連する共通セッションをなるべくたくさん提案するように会員に呼びかけることにする。

### 5. 学会費納入の口座自動引き落としについて

財務専門委員会杉浦委員長より学会費の口座自動引き落としについて，資料をもとに「学会事務センターに依頼する場合，初年度600円(会員一人あたり)かかる。2年目からは300円程度になるが，現在納入率は90%程度まで上がっており，すぐに高い効果がある，というものではない」との説明があった。

学会センターの方でこのシステムを導入するには一番早くて再来年度からとなり，その決定のリミットは来年の7月である。導入するためには総会の承認も必要となるので，今秋の総会で検討し，来年春の合同大会の折の総会において決定することにする。また，学会事務センターで扱っている複数の学会加入者は，どの学会から引き落とされたのかが銀行通帳の上でわかるかどうか(一部金融機関は通帳に明記されることを確認済み)について，委員長が再度確認することとなった。

## ◇「火星生命体発見」にかかわって

会員の皆様

会長 中澤 清

マスコミ報道で先刻ご承知のように、NASAは「火星の生命体発見」を発表しました。30～35億年の年齢を持つ火星起源の隕石、ALH84001から20-100nmサイズの微化石と考えられる構造を発見し、また、その近傍から有機物質 PAHを確認した、というものです(詳しくは、本号速報記事をご覧ください)。この報道に接し、いろいろお考えのこともあるかと思えます。以下のような観点から、お考え、ご意見を事務局(e-mail:jsps@geo.titech.ac.jpまたは郵便)までお寄せ下さい。今後の本会の運営の参考にしたいと思います。

- a)まずは、どんな印象をお持ちになりましたか。
- b)今回の発見を検証する方法があるのでしょうか、あるとすれば日本でそれが可能でしょうか。
- c)NASAは火星生命探査計画を加速したいと考え、日本に協力を要請したいようです。日本としてはどのような協力ができるでしょうか。
- d)今回の発見によって日本の惑星探査計画の軌道修正を図る必要があるでしょうか。
- e)その他、今回の発見にかかわってお考えになったことをお書き下さい。

## ◇電子メールニュースレターへの投稿について

電子メールニュースレターの発行は毎月15日前後に編集発行します。ニュースレターに記事を投稿したい方は毎月10日までに電子メールにより原稿を送付して下さい。宛先は、

**JSPSNEWS@geo.titech.ac.jp**

です。事務局でレイアウトを多少変更するなど簡易編集はしますが、基本的には投稿原稿をそのままの形で掲載されることになります。

なお、電子メールとしての有効性を守るため、記事はできるだけ簡潔なものにしていただくようお願いいたします。また、内容によって事務局の判断で掲載不可とさせていただく場合があります。あらかじめご承知おき下さい。また、これまでと同様電子メールニュースレターで流された記事は事務局の判断で学会誌「遊・星・人」に転載することがあります。

(東工大・榎森 啓元)

## ◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」は平成4年4月に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたつて惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています。

## ◇学会紙購読申込み

本誌「遊・星・人」は会員外の方でも1号あたり1,750円(含送料)で購読することができます。購読希望の方は、本誌巻末の「学会誌購入申込カード」に所定の事項をご記入の上、事務局にお申し込み下さい。なお、バックナンバーについては創

入会の方法は下記の通りです。

年会費：

6,000円(但し、学生会員は4,000円)

入会手続：

- (a)入会申込書(本誌巻末に綴込まれています)にご記入の上、事務局にご送付下さい。
- (b)運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。
- (c)その後(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります(最大2ヶ月程度)が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

### 事務局

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学 理学部 地学内

TEL：03-3720-9885；FAX：03-3727-4662

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター

TEL：03-5814-5801；FAX：03-5814-5820

刊号から購読できますが、発行予定のものについては同年内発行のものまで(第1号より第4号まで)となっておりますのでご注意下さい。

学会事務局が購読申込書を受け取り次第、請求書(他必要書類)、バックナンバー及び最新刊会誌

## ◇日本惑星科学会第3期役員名簿

## 会 長

中澤 清 (東工大・理)

## 副会長

武田 弘 (千葉工大)

水谷 仁 (宇宙研)

## 監 事

中野 武宣 (天文台)

松田 准一 (阪大・理)

## 運営委員・幹事・財務専門委員長

杉浦 直治 (東大・理)

## 運営委員・幹事・総務専門委員長

藤原 顯 (宇宙研)

## 運営委員・編集専門委員長

村江 達士 (九大・理)

## 運営委員・将来計画専門委員長

山本 哲生 (北大・理)

## 運営委員・対外協力専門委員長

松井 孝典 (東大・理)

## 運営委員

荒川 政彦 (北大・低温研)

大谷 栄治 (東北大・理)

川口淳一郎 (宇宙研)

加藤 學 (名大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

土山 明 (阪大・理)

寺沢 敏夫 (東大・理)

林 正彦 (天文台)

福岡 孝昭 (学習院大・理)

藤井 直之 (名大・理)

向井 正 (神戸大・理)

矢内 桂三 (岩手大・工)

渡部 潤一 (天文台)

## 運営委員・企画部会長

佐々木 晶 (東大・理)

## 運営委員・学会連合等部会長

阿部 豊 (東大・理)

## ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1996年8月9日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します(五十音順)

(株)大林組

カメカインスツルメンツ(株)

(有)サンデーズ

竹中工務店

日本電気(株)宇宙開発室

(株)パスコ

(株)日立製作所

(株)本田技術研究所

三菱重工業(株)

三菱プレシジョン(株)

(財)リモートセンシング技術センター